

CTPワークフロー

— 責了から刷版が出来上がるまで —

CTPとは“Computer to Plate”（コンピュータ・トゥ・プレート）の略で、従来の工程では組版したデータを一度ポジフィルムに焼き、その後版に焼き付けていましたが、データを印刷機に掛けられる版に焼き付け、刷版を生成するシステムのことです。

つまり従来よりも一工程少ない点、効率が悪くなりますし、さらにCTPでは機械で直接、版に焼き付けられますので、文字や画像（網点^{あみ点}）がシャープに再現できます。

ここで簡単に「CTPワークフロー」を説明します。

① 面付け設計 最終責了・下版後、True Flow^{トゥルーフロー}を使い、面付け設計（仕上がり寸法指定・台割表・トンボ台紙・ページ面付け・背丁その他アクセサリ）処理を行います。この装置は、大量ページを一括処理できる機能を持ち、また同時に複数のオペレータによる面付け設計操作が可能です。

② 刷版設計から出力まで 面付け設計の検査・確認が済むと、Flat Workerで刷版設計^{ろばんちがい}（折単位にページ面付け済のデータを何折か付け合せ（大貼り）・同じ折の多面付け^{ためんつ}・用紙サイズに合った印刷版面の設定・印刷に必要なカラーバーや針当たり等のアクセサリを配置）を行い、さらに刷版設計の検査・確認の後、CTP出力セッターPlateRite 8600でデータが版に焼き付けられ、現像され、CTP刷版が出来上がります。

どの工程も「デジタル」を扱うわけですから、機械（コンピュータ）まかせにせず、チェックポイントごとで着実に検査・確認を励行することが必須です。

* True Flow・Flat Worker・PlateRite 8600は当社で導入している大日本スクリーン製造(株)の商品名です。